



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



正常化献金廃止に向け方策を探る

教区会計がアンケートを実施し結果を発表

一昨年の経済問題評議会での提案を受けて二〇一四年度からの「教区正常化献金廃止」を決定した教区では、新体制が始まる前に正常化献金分の維持費移行作業の進捗状況を調査するアンケートを実施、このほどその集計結果を発表した。

二〇一二年十二月九日に開催された教区経済問題評議会が「正常化献金廃止」を訴えたのは次の理由「正常化献金だけに目を向けると、教区会計と同じように疲弊している小教区会計を立て直しの機会を逸する。小教区会計も含めた立て直しのためには、教会維持費の増額が不可欠」からだつた。

やさしく微笑むマリア像を設置

本部棟横ザビエル教会中庭に



この日の祝別式には、教区本部とザビエル教会の関係者数人が参列し、司教とともに祈りをささげた。今では教会を訪れた人がマリア像の前で祈りをささげる姿が見られるようになり微笑ましい限りである。

十二月十九日(木)夕方、教区本部横の「グリーンスペース」(聖書の庭)に設置が進められていたマリア像の祝別とライト点灯式があった。このマリア像は殺風景な教区本部とザビエル教会の敷地を憩いの場所にした思いがきっかけとなつて、ベトナムからその台座とともに取り寄せられたもので、その設置は造園家の永井明弘さんのデザイン。

た。この前提のもとに名瀬聖心教会などが取り組んだ「信徒の教会維持費の増額」や「未納者への納入願い」がそれなりの成果を上げたことを追い風に同評議会は一昨年の訴えに至つた。

実施したのは、教区会計担当に寄せられる多くの意見の中に正常化献金廃止について、不協和音ともとれる足並みの乱れが感じられたからである。

と、小教区、教区において以上の三つの取り組みが徹底されてきたのかを顧みるためでもあった。

廃止を訴えた経済問題評議会がその移行実施への方策として決めた手立ては次の三つ。

①正常化献金分の教会維持費への移行が難しい小教区には、その分の分担金を願う

新風

ミサを行いながら、ミサの各部分の理解を深めてみたいと思う日々が続いています。例えば、「奉納」についてです。ミサの中間、信者の代表がパンとブドウ酒を奉納します。その意味を「キリストとわれらのミサ」の説明が教えてくれます。

注がれる一滴の水

ミサの意味でもあります。「一滴の水」をカリスマのブドウ酒に注ぐ時、司祭が唱える小さな声を皆さまはお聞きになったことが

あるでしょうか。司祭は次のように唱えています。「この水とブドウ酒の神秘によつてわたしたちが、人となられた方の神聖にあずかることができますように。」

ミサは私たちがキリストに結ばれること、キリストに含まれ、包まれること、そのような事を、奉納の箇所であって、司教が望む人、教区本部、寝占教之(報告・寝占教之)

二月十一日は世界病者の日 病に苦しむ人のために祈ろう

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九八四年二月十一日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡「サルヴィフィチ・ドロリス」を「苦しみのキリスト教的意味」を発表し、翌年二月十一日には教皇庁医療使徒職評議会を開設しました。そして一九九三年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが発表されています。病者がふさわしい援助を

大槌ベースでのボランティア募集

長崎教会管区東日本復興支援担当者会議

第十三回目的「東日本大震災復興支援担当者会議」が一月十七日(金)福岡大名町教会で開催された。今回は報告が主で特に次の二つをお伝えする。

この他、集会所のない仮設住宅で個別に三十九カ所、新ベースの桜木町ベース近隣三十八カ所、新ベース事務所の近隣での十カ所で行

る。②三年間使った大槌町末広町の旧「寿ビジネスホテル」が大槌町の復興計画のために使用できなくなり、大槌ベースは昨年十二月に大槌町桜木町への引越しを終えた。新ベースは居住宅が二つある。一つはボランティアのための宿泊施設でもう一つはスタッフの宿泊施設となる。

とところで、大槌ベースでは受け入れ施設とスタッフはどうにか確保できているがボランティア不足が顕著になってきたという。四、五日間でもボランティアに行つてみたいと希望する人は、教区本部(寝占)まで連絡して欲しい。

(報告・寝占教之)

北薩カトリック大会での体験発表④

カテキスタとして歩んだ半世紀

入来教会 島澤朝江

私の所属する聖マリア在俗会（旧称は聖母カテキスタ会）は名古屋教区長の認可を得て、一九五四年に創立されました。そして現在では日本に百六十四人の会員、韓国に十五人、タイとインドネシアにそれぞれ一人の会員がおります。そんな会に所属する私の思い出を辿ってみたいと思います。

私は大分県中津市出身です。今、女学生の頃を思い出しています。

当時は戦時中でしたので、私は学徒動員で九州の山の中で働いていました。私たちの近くには韓国人の男性が徴用されて働いていると聞いていましたが、一度も見たことはありませんでした。しかしある日、大きい歓声が上がりました。それは韓国人たちの「わあ」という声で、日本の敗戦、つまり戦争が終わったのでした。彼らは解放されるのですから喜ぶはずですよ。

こういう時代を経て、再び女学校へと戻り勉強し卒業しました。卒業後の私は中津市役所に勤務しました。その近くにはカトリック教会があり、サレジオ会のイタリア人神父様がいらつしやると聞いていました。

教会との出会い

終戦後は大変な時代で、肺結核が流行し、若い人たちがたくさん亡くなりました。私の家の近くには私より一歳年上のお姉さんが肺結核のため家で寝ておられました。そんな彼女を見舞

うために教会から神学生だという青年がやって来て、私は家まで案内しました。肺結核は伝染病ですから、私たちでさえ病人の近くには行かないようにして、少し距離をとって話していました。この神学生は病人のすぐ近くに行き、一生懸命話をしていました。

驚いてしまいました。しかしその後病人のお父さんから「教会からあの青年が来た後は、娘がひどく疲れて病気が悪くなるから来ないように、訪問を断つてくれ」と頼まれ、私は初めてカトリック教会に足を運んだのでした。お父さんの意向をお伝えするとそれを聞いた神学生は「お父さんが言われたのなら、私は行きます。病人はとても喜んでいましたから」との返答。私は唖然として言葉が

出ませんでした。そしてそれから一週間後、彼女は亡くなりました。当時は戦争孤児が多く、親のない子をサレジオ会の神父様と修道士さんが世話して、ドン・ボスコ学園で共に生活していました。私はドン・ボスコ学園でイタリア人の神父様から教理を勉強し洗礼の恵みを頂きました。そして一九五八年ドイツ人のシスターの紹介で、ゲマインダ神父様にお会いし、聖母カテキスタ会の志願者としてカテキスタ学院で学び修練を受け、一九六一年三月初奉獻をしました。そしてその翌月から名古屋市内の押切カトリック教会に勤めました。そこはカナダ人の神父様で、当時は若い男女がたくさん来ていました。それは今の教会では考えられないほど

です。一九六五年九月、名古屋から寝台特急夜行列車に乗って鹿兒島に来ました。鹿兒島は初めての地で何も分かりませんでした。そして加世田に着任、その後、阿久根（一九六九年）、入来（一九八二年）と働かせてもらいました。

この中では三十五年前に阿久根で亡くなられたマイエル神父さまのことが思い出されます。阿久根に着任した私は運転免許を取らせて頂きました。四十五歳になっていましたし、自転車にも乗れない私でしたから、免許取得は大変なことでした。不満

は、私が入来から宮崎まで一人で運転して出席してました。免許のおかげでどんなに助かったことでしょうか。現在では、主日の入来教会のミサのためと市比野の病院に行くために車を運転しています。またマイエル神父様が信者に聖書をプレゼントする

鹿兒島へ

一九六五年九月、名古屋から寝台特急夜行列車に乗って鹿兒島に来ました。鹿兒島は初めての地で何も分かりませんでした。そして加世田に着任、その後、阿久根（一九六九年）、入来（一九八二年）と働かせてもらいました。

この中では三十五年前に阿久根で亡くなられたマイエル神父さまのことが思い出されます。阿久根に着任した私は運転免許を取らせて頂きました。四十五歳になっていましたし、自転車にも乗れない私でしたから、免許取得は大変なことでした。不満

は、私が入来から宮崎まで一人で運転して出席してました。免許のおかげでどんなに助かったことでしょうか。現在では、主日の入来教会のミサのためと市比野の病院に行くために車を運転しています。またマイエル神父様が信者に聖書をプレゼントする

「不正な管理人」のたとえの加筆部分を理解するためには（16・9・13）、同胞に金を貸すときには利子を取ってはならないという律法がある、ということが前提となります（出エ22・24、レビ25・36）、申命23・20・21。こうした律法がありながらも、現実には高利貸のような仕事をしている者もいたようです（箴言28・8、エゼキエル18・17）。さて、「不正」と訳された言葉は原語では「不義な」という意味があります。これは神の正しさに反することを意味するルカ独特な表現です。このことから、主人は律法に反した利息付きの「貸し」を作っていたのかもしれない、と想像されます。だとすれば、管理人が証文を書き換えたとしても、本来の「借り」に戻っただけなのかもしれません。ならば、借りを抱えた者にとつては救いとなり、主人は律法を守ることになり、そして管理人は律法に準じたことになりました。これにより誰もが神様に対して人に対して負い目を感じることがなくなり、十六章9節以降は「不正」をこ

鈴木神父のやさしいみことば

不正な管理人のたとえ(2)

書かれていますと考えることができます。おそらく加筆者は、不正な管理人がイエス様に褒められていたことから、彼の行いを良いものとして理解しようとした結果、このような一捻りある加筆をしたのかもしれない。イエス様のたとえ話は神の国との関係で考えるべきものなのですから、これはこれで納得のいくような気がします。

+KABAYAN SEKSIYON+
Maari bang may pagdududa at may pananampalataya?
Marahil si Apostol Tomas ang pinakabantog na taong "mapagduda."
Iginiit niyang kailangan muna niyang mahipo ang mga sugat ni Kristo bago siya maniwalang ito'y muling nabuhay (Jn 20:19-29). May kaugnayan ng aba ang pananampalataya at pagdududa?
Bago siya naging Papa, isinulat ni Benedicto XVI sa kanyang aklat na Pambungad sa Kristiyanismo na "ang mananampalataya ay laging sinusubok ng pag-aalangan na, sa mga sandal ng tukso, ay maaaring bigla at di-inaasahang magbunyang sa kahinaan ng kabuuang pananampalataya na dati-rati'y mistulang napakalinaw para sa kanya."
Maging ang mga mananampalataya ay tinatablan din ng mga pag-aalangan. Sa librong Mother Teresa : Come Be My Light ni Brian Kolodiejchuk ipinapakita rito kung paanong ang isang santa ay nakipagbuno sa kadiliman at pagdududa. Tanging ang kaalaman na ang kanyang sariling paghihirap ay isang pakikiisa sa paghihirap na dinanas ni Kristo sa krus ang nakapagpapatag sa kanyang loob. Kahit sa kanyang pagkabulid sa dilim, napanatili ni Madre Teresa ang kanyang pananampalataya kasama ng mga dukha at naghihikahos na kanyang pinaglingkuran.
Beata Madre Teresa ng Calcuta, tulungan ninyo kaming maniwala kahit sa mga sandal ng pagdududa.
Subalit sa pagdududa sa ngalan ng pananampalataya ay tinutulungan naman tayo ng Banal na Espiritu pinalalakas niya ang ating pananampalataya. Kaya para mas lalong lumakas ang ating pananampalataya ay dapat palagi tayong matatag din sa ngalan ng panalangin. Dahil sa pagdarasal ay ating pinapalakas ang ating relasyon sa Poong Maykapal diyan sa kanyang Bugtong na Anak si Jesukristo na ating Panginoon.
Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)

議を開いていましたから、私は入来から宮崎まで一人で運転して出席してました。免許のおかげでどんなに助かったことでしょうか。現在では、主日の入来教会のミサのためと市比野の病院に行くために車を運転しています。またマイエル神父様が信者に聖書をプレゼントする

のよう「律法に反する」という意味で使っていると考えられることから、この箇所は後代の加筆ではなからうか、と想像されるのです。このことを踏まえると「不正にまみれた富で友達を作らなさい。そうしておけば、金がなくなつたとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる」という言葉が理解できます（16・9）。ここでは、律法に反する富を利用して貧しい同胞を友とすること、即ち、苦しむ者に施すのならば、その富によつて生活し生涯を終えた者たちが神の国に迎え入れられたとき、あなたがたを神の国で永遠の幕屋に受け入れてくれるだろう、ということが書かれています。

活し生涯を終えた者たちが神の国に迎え入れられたとき、あなたがたを神の国で永遠の幕屋に受け入れてくれるだろう、ということが書かれています。

小さな人たちに

温かいクリスマス ザビエル教会夜回り会

二〇〇四年 二月に路上生活者とのかわりを決意したザビエル教会では「夜回り会」をスタートさせ、毎週土曜日夜の炊き出しの他、シャワー

の提供（毎週火曜日）などの活動を続けてきている。そんな会が寒い冬のプレゼントとしているのがクリスマス集。昨年十二月二十一日夜、ザビエル教会ホールで一人寂しくクリスマスの人たちに音楽や食事のもてなしのプレゼントをした。

まず所属する共同体を大切に

キリスト教一致祈禱集会

キリスト教一致祈禱週
 間中(一月十八日、二十
 五日)の十九日(日)、ザ
 ビエル教会で鹿児島地区
 のキリスト教一致祈禱集
 会があった。今年のテー
 マは「キリストは幾つに



アン神父のメッセージを聞く 参列者

も分けられてしまったの
 すか」(一コリント1・1
 7)で、カトリックとプロ
 テスタントの兄弟たち八
 十人が共に一致と平和のた
 めに祈りをささげた。
 午後二時から始められた
 今年の祈禱会の司式
 を務めたのはエキュ
 メニズム教区担当の
 桃蘭淳一郎終身助
 祭。参列者たちは桃
 蘭助祭の先唱で祈り
 をささげ、アン神父
 (ザビエル教会主任
 司祭)のメッセージ
 に耳を傾けた。アン
 神父は「一致のため
 にも、福音宣教のため
 にもまずお互いの
 所属する共同体を大
 切しよう。そうすれ
 ば一致と団結が生ま

司教執務室便り

夢は「ほのぼのの家族」の展開

昨年十二月、神学生対象にMEの紹介
 をさせてもらった時のことだ。神学生と
 言っても、大学を出たばかりの哲学生か
 ら五十代の助祭まで年齢の違いは大きい
 二日目、ミサ後の朝食、向かいに座った
 のは、まさにそんな組み合わせの哲学生
 と助祭。二人の会話の内容は記憶にない
 が、哲学生は話が好きな末っ子で、隣の
 助祭は寡黙な長男。大家族を描いた映画
 のワンシーンを思わせるようなほのぼの
 とした光景に心が和んだ。いつも生活を
 共にしている神学生や養成者たちには見
 慣れた光景だったかもしれないが、初め
 ての私にはとても印象深く新鮮だった。
 悪気のないおしゃべりが奔放に飛び交
 い、うるさがる者もなく、アットホーム
 で静かな空気が流れ、穏やかに一日が始
 まる。少し大げさだが、「あ、ここに神の
 国がある」と素直に思えた。ホンのひと
 時を共にしただけの感想だが、初めて訪

ねる者にとつては第一印
 象が大きな意味を持つ。
 とここで、アットホー
 ムと言え、新年の年頭
 書簡は祈りの雰囲気満
 ちた家庭づくりへの招きだったのだが、
 何人かの方から肯定的な感想をいただい
 て嬉しかった。家庭にしろ、小教区にし
 ろ、私たちはイエス様の名のもとに集め
 られた神さまの家族だから、たとえ、家
 族で一人だけが信者だとしても、目指す
 べきはあほのぼのとした家族の風景に
 違いない。「あ、ここに神の国がある。」
 そんな感想を自分の家庭や小教区に持つ
 ことができたと思う。
 確かに、ため息をつきたくなるような
 現実の方が多かもしれないが、そうで
 あればなおのこと、信仰の眼をいっばい
 に開いて、我が家の神の国、我が小教区
 の神の国を探そうとすることが大切では
 ないかと思う。
 訪ねてくる人をいつでも和ませることの
 できる神様の『ほのぼのの家族』が教区中
 に広がりますように。遅すぎた初夢?



各地で新成人のために祈り

ザビエル教会では三姉妹に祝福

鹿児島県内で今年成人を
 迎えたのは一万五千人余。
 教区内の各教会でも一月に
 入って成人のための集いが

れる」と参列者たちに一致
 のためのヒントを与えた。
 その後は、皆で「ニケア
 信条」で信仰告白し、「主
 の祈り」を唱えて、互いに
 平和の挨拶を交わした。そ
 して派遣と祝福の後には高
 らかに「アメージンググレ
 ース」を皆で歌い祈禱会を
 締めくくった。約一時間の
 集いの後は、一階の教会ホ
 ールで茶話会が開かれ、自
 己紹介がされるなど、同じ
 キリストを信じる者たちな
 らではの温かいひとときが
 持たれた。
 グレゴリオ聖歌サークル
 この日の祈禱会で教会の

宝と言われるグレゴリオ聖
 歌を披露してくれたのは、
 鴨池教会で練習を積んでい
 る十数人のメンバー。彼ら
 は「グレゴリオ聖歌サーク
 ル」の面々で、桃蘭助祭の
 指導を受けている。現在メ
 ンバーは十五人程で、その
 大半が未洗者と言い、桃蘭
 助祭も彼らを洗礼まで導け
 ればと夢を語る。
 練習日は毎週水曜日十九
 時から二十時と、第二・第
 四日曜日の十三時から十四
 時、希望者は誰でも参加で
 きる。申込・問合せは桃蘭
 助祭(☎090-17290
 14287)まで。



開かれたり、ミサの中で祈
 りがささげられた。
 そんな中、ザビエル教会
 では艶やかな和服姿の可愛

短信

加世田教会堅信式

十二月二十二日(日)加
 世田教会では郡山司教によ
 る堅信式があり、四人がそ
 の恵みに浴した。

瀬留教会が文集を編集

昨年九月、ブイジュ神父
 の故郷を訪ねる巡礼を行っ



た瀬留小教区では、巡礼の
 参加者たちから寄せられた
 感想文を文集としてまとめ
 配布した。

文芸

俳句

奄美市 林 常広
 我友は消防団出初め式いぎ
 向かわんと噴射しをり
 鹿児島市 徳永ノブ子
 何はとも健やか祈る明けの
 春
 潮風にまみれた水仙みだれ
 咲き
 鹿児島純心 川上 和
 鈴なりのまんまる笑顔初日
 あび
 出水教会 沖 弘子
 星座の名言ひつつミサへ聖
 夜かな
 嬰抱かれ眠りてをりぬ聖夜
 ミサ
 ザビエル教会 上野千穂子
 夜半のミサ終わりに心新た
 なり
 ガラス窓の手に冬日さす
 星冴ゆる賛美歌ながれ誓う愛
 元日や夫と頂く幸せを

短歌

鴨池教会 前田儀子
 祭壇の白き布を黒に替ゆ平
 和な日訪れるように
 鹿児島純心 川上 和
 風雪も希望にのせて八十年
 大使も歓声花咲く丘に
 大笠利教会 稲 牛憲
 年明けて八十九聖堂に会
 う人は皆吾より若し
 ルカ福音シマの言葉に訳し
 つつシマに無き言葉ありて
 まどう
 徳之島教会 泉 克枝
 信仰の恵みを頂き感謝して
 祈りのうちにあなたと話す
 涙がね止まらないほど悲し
 くてでも神さまが止めてく
 れたよ
 出水教会 遠竹睦郎
 神の愛説く訪日せし教皇の
 写真飾りて日毎眺めぬ
 ザビエルの上陸の地の祇園
 之洲の浜辺を友とそぞろ歩
 きぬ

学びましょう

宣教学校で

毎月第二土曜日午後(一
 時半から三時半)に教区本
 部(信徒共同室)で信徒の
 宣教意識を高めるための取
 り組みを模索する「宣教学
 校」を開いています。内容
 は鹿児島純心女子学園で宗
 教を担当しておられるシス
 ターから「カトリックの教
 え」についての講話を聞き、
 その後は分かち合いなどで
 す。
 分かち合いでは①子ども
 の結婚式は必ず教会でさせ
 よう②教会学校を塾や部活
 動より優先させよう③各家
 庭で朝夕の祈りを実践し、
 その際の聖書朗読を親が担
 当しよう④地域の人と交流
 しクリスマスやバザーに教
 会に誘おうなどが出てお
 り、これらについても具体
 的に話し合っ行ってみたいと
 考えています。興味のある
 方はご出席ください。(久
 保俊弘終身助祭)

会と催し

(2月)

- 2日(日) 主の奉獻
- 4日(火) ポツフィ神父命日(一九八八年)
- 5日(水) 日本二十六聖人殉教者
- 9日(日) 年間第五主日
- 10日(月) レンプトール会総会・13日
- 11日(火) 世界病者の日
- 13日(木) ハンマ神父霊名(ヨルダン)
- 14日(金) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 16日(日) 年間第六主日
- 22日(土) 奄美の宣教司牧を考える会
- 23日(日) 年間第七主日
- 27日(木) 東條一浩神父命日(二〇〇一年)

祈りの意向

- 【フベナ】「病者の日」に際し病床にある信者のために
- 【祈禱の使徒会】世界共通・高齢者
- 宣教・福音宣教における協力
- 日本の教会・社会の福音化

一 キリシタン禁教令・解禁への歩み

一八五三年（嘉永六年）に、ペリーが浦賀に入港し、日本の徳川幕府に開国を迫ったから、日本は疾風怒涛（シユトルム ウント ドラ ンク storm und drang）の時代に入りました。対外交渉に当たった徳川幕府は、政治的弱体をさらけ出すことになっていきました。薩長などの雄藩の力がしだいに強化されていくに及んで、ついに一八六七年（慶応三年）徳川幕府は倒れ、王政復古・明治維新が樹立されていきました。

とはいえ、明治維新政府は、未だ安定したものとはなっておらず、中央政府の力が確立されたものになつていくのは、一八七七年（明治十年）の西郷隆盛の乱―西南戦争が終結してからのことでした。

岩倉、木戸、大久保ら政府首脳が欧米視察に行つていた一八七二年（明治五年）から七三年にかけて、西郷隆盛は、留守中の政権を担当して行きました。その七三年に、キリシタン禁教令の解禁が行われたのです。解禁の理由は、キリシタン弾圧をしている日本政府に対して、岩倉をはじめとする日本使節団が訪問している欧米諸国の先々において激しい批判を浴びたからです。

「幕末に徳川幕府が欧米の軍事力に屈して結んだ不平等条約の改正交渉は、キリシタン弾圧をやめ、禁教を解禁せねば応じない」という強い態度が、キリスト教国である欧米諸国政府に見られたのです。岩倉らは、この外圧に対し、急遽、西郷留守内閣に電報を打ち、キリシタン禁教を解禁するよう、命じさせました。

西郷さんがキリシタンであり、横浜の教会で宣教師から洗礼を受けたという説が伝えられていることもあり、西郷さんの対応には、普通の閣僚とは違ったものがあったかもしれないですね。

もちろん、西郷さんの名前は教会の洗礼台帳に記載されていません。たとえば、西郷さんが洗礼を受けていたとしても、キリシタン禁教が解禁されるまでは、西郷さんは政府首脳として、その政策を守る立場にあります。従つて、洗礼を受けたとしても、その時期は、明治六年のキリシタン解禁から、薩摩に帰るまでの一年有余の間ということになります。

とはいえ、解禁後、五、

キリシタンの歴史②

キリシタン禁教の解禁

溝辺教会主任司祭 坂本 進

る前に、最後の弾圧とでも言えるキリシタン迫害が起りました。これが「長崎・浦上四番崩れ」と言われる迫害でした。「四番崩れ」とは、禁教になつてからの四番目の大きな迫害（崩れ）という意味です。

一八六五年に、長崎の浦上に「フランス寺」と言われる寺がフランス人によつて建立されましたが、これが有名な「浦上天主堂」です。この教会に神父がいることが分かると、隠れキリシタンであつた信者たちがしだいに集まつてくるようになったのです。「長崎信者発見」の始まりですね。浦上のキリシタンたちは、浦上天主堂に行き神父から指導を受けるようになったことから、檀家となつてい

た寺と縁を切り、「葬式を自分たちで行う」と檀家になつていく寺に申し出たのです。このことから、宣教師の指導を受けていたことが明るみに出、一八六七年、奉行所の手入れを受けて、逮捕されるに至りました（結城了悟『最後の迫害』）。

翌一八六八年、政権が徳川幕府から明治政府に代わりましたが、明治政府は国家神道を体制の基軸とさせようとしていたことから、キリシタン弾圧を継続し、

逮捕されていた浦上のキリシタン全員四千二百数十人を流罪にさせることを決定したので（片岡弥吉『浦上四番崩れ』）。後に流された者を含めると四千四百十人となつていきます（永井隆『乙女峠』）。

これが、「浦上四番崩れ」のいきさつです。浦上で最も堅固な信仰を持つていたとされるドミニコ高木仙右衛門らは、流罪されるに至りましたが、その流罪地が山口の津和野藩であつたのです。流罪地・津和野の乙女峠には、現在、記念聖堂が建立されており、多くの巡礼者が訪れ、毎年五月三日には、津和野カトリック教会主催による「乙女峠祭」が持たれています。

キリスト教作家・遠藤周

作の『女の一生』は、「浦上四番崩れ」が題材とされており、「キク」と「サチ」という女性を登場させ、感動的に描かれています。

三 「敬天愛人」とキリスト者・中村正直

一八七三年（明治六年）に、欧米キリスト教諸国からの激しい批判を受けて、キリシタン禁教の高札は撤廃されましたが、弾圧はなくなつたわけではありませぬ。明治政府は、キリスト教が教育に及ぼす影響を恐れ、一八七三年に宣教師が教職に就くことを禁止し、外国人による私学・私塾の開設を制限。キリスト教徒の教師を学校から追放すること、学生の教会出入りの禁止、学校でキリスト教宗

教教育・宗教儀式を行うこととの禁止などを推進させたのです。

しかし、欧米文化を取り入れ、文明開化を推進して行こうとする明治政府であつてみれば、欧米文明の基礎をなすキリスト教を全否定することはできません。キリスト教精神に貫かれた英国のスマイルズ著『自助論―西国立志伝』は、明治天皇も読まれ、西郷さんはそれを座右の銘としたと言われています。

中村正直（敬字）は、英国から帰国した後、明治元年に『敬天愛人』という著書を書き、この文字の中に、キリスト教の精神があることを看破しました。スマイルズ『自助論』、J・S・ミル『自由論』などを訳すうちに、自身も洗礼を受けて（明治八年）キリスト信者になつていきます。正直がによる造語である「敬天愛人」は、由来を儒教の『論語』に依拠させていますが、「敬天」と「愛人」を一つの合成語として用いたのは中村正直をはじめとしています。この用語を、西郷さんが知り、自身の生き方のモットーとさせたのです。西郷さんの言葉ではなく、もともとは、中村正直の言葉であつたのです（太田愛人『明治キリスト教の流域』）。中村正直は、身分の低い幕臣として生まれながらも、英国留学を果たし、明治期の啓蒙思想家として名を知られ、東大教授、元老院議員などを歴任しました。

四 明治のキリスト教

明治の文明開化はキリスト教解禁後、キリスト教を進展させていくことに道を開かせることになりました。プロテスタントにおいて

は、札幌農学校（現北海道大学）で教えたクラーク牧師が「Boys be ambitious」という言葉によつて、新生日本の時代を背負う若者たちを激励したことは、つとに知られています。彼から洗礼を受けた門下生に、日本最大のキリスト者と言われる内村鑑三、国連事務次長を務め一高（東大教養学部）校長も歴任した新渡戸稲造などがいました。明治期においては、政治家はほとんど薩長・土佐肥前閥などで占められていたので、旧幕臣は畢竟、宗教界・教育界にその道を見い出すようになって行つたのです。

内村鑑三、NHKドラマ「八重の桜」の夫である新島襄は、いずれも高崎藩の武士でした。そして、プロテスタント教会において、クラークによつて、一八七七年結成された札幌バンド（団体）、そして横浜英語学校を開きヘボン式文字を考案したヘボンの流れを組む者たちによつて結成された横浜バンド、熊本洋学校を開いたジェーンズによつて結成された熊本バンドなども、いずれも旧幕臣側の武士によつて占められていたのです。

札幌バンドからは内村、新渡戸などの指導者が生まれ、横浜バンドからは青山学院の院長となる本多庸一、明治学院創立メンバーとなる井深梶之助、植村正久が生まれ、熊本バンドからは小崎弘道（同志社大学二代目総長）、海老名弾正（同志社八代目総長）が生まれていきます。プロテスタント教会は一八八八年に二百四十九教会、信者一万五千五百人、宣教師四百五十一人、日本人教役者百四十二人を数えています。

カトリック教会は一八八四年に、信者数三万二百人、一八九五年に、信者数五万三百人。一八八四年に「司教四人、司祭百十五人（パリミッシヨンの八十八人、邦人司祭二十人と記録されています。一八六二年、横浜に開国以来最初のカトリック教会が創立され、聖心教会と命名されました。これが、現在の山手教会の原型です。一八六四年には、浦上天主堂が建立。明治期におけるカトリック教会は、主にパリミッシヨンのによる社会福祉事業が宣教活動として行われていたことは、皆さんよくご存じの通りです。御殿場の神山復生病院も、パリミッシヨンの神父さまにより一八八九年に創立されています。同じくパリミッシヨンのにより、一八九八年に熊本に待労院というハンセン氏病療養所も創立されました。

一八七八年に長崎に赴任したド・ロ神父さまは生活の貧しい人々のために孤児院、救助院（授産施設）を設立。また、織物、編み物、素麺、マカロニ、パン、醤油などを製造させ、生活支援に役立たせたのです。皆さんも よくご存じの「ド・ロさまそうめん」は、この時、生まれたものなのです。日本における明治以後のカトリックの歴史は、パリミッシヨンのによる、下層階級を中心とする慈善活動を伴わせた宣教により始められて行つたと言えます。

鹿児島教区の沿革も一八八四年にパリミッシヨンのフェリエ神父さまが来鹿され、鹿児島と川内に教会を建立したのが始まりです。パリミッシヨンの神父さま方に、日本人は多大な恩を頂いているんですね。（次号に続く）



津和野の地蔵堂跡に
乙女峠